

## 第2回

# 高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施における通いの場

千葉大学予防医学センター特任研究員 **井手 一茂**

共著：千葉大学予防医学センター特任研究員 **上野 貴之**

千葉大学予防医学センター 教授 **近藤 克則**

## 1. はじめに

第1回では、2020年度より導入された高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（以下、一体的実施）にはフレイル予防など後期高齢者を対象とした保健事業と介護予防との一体的実施が含まれることを紹介しました。

今回は、一体的実施の中でも重要視されている通いの場の位置づけとその活用、フレイルに関わる日本老年学的評価研究（Japan Gerontological Evaluation Study、以下JAGES、<https://www.jages.net/>）の研究成果を紹介します。

## 2. 一体的実施における通いの場の位置づけ

一体的実施において、通いの場は保健事業と介護予防の事業等を結びつける役割が期待されています。具体的には、保健事業において、抽出されたフレイル状態やそのおそれのある、特に後期高齢者に対し、通いの場などの社会参加を含むフレイル対策を展開することが求められています<sup>1)</sup>。加えて、医療専門職が通いの場等に積極的に関与することで、フレイル予防の普及・促進、健康教育・相談、健康状態の把握などを行い、地域の高齢者に対するフレイル予防の重要性の浸透を狙っ

ています<sup>1)</sup>。さらに、かかりつけ医等とも、通いの場への参加推奨、事業全体への助言という形で連携することも期待されています<sup>1)</sup>。以上のように、一体的実施において通いの場は、重要な位置づけとなっています。介護予防事業により既に展開されている通いの場を活用したり、新たに展開する際は介護予防担当課と協働実施したりすることも、効率的に一体的実施を進める上では重要な考え方になります。

## 3. 通いの場の活用により期待される効果

一体的実施において重視されているフレイル対策も通いの場を活用することで、効果を発揮することがこれまでのJAGESの知見からも示されています。JAGESの2010・2013・2016年度の調査に参加した延べ81市町村の高齢者37万5,400人のデータを用い、通いの場の地域介護予防活動支援事業の実施回数とフレイルの関係を調べました<sup>2)</sup>。その結果、その市町村に住む高齢者100人あたり1回の地域介護予防活動支援事業実施が、フレイルになるリスク約1割の減少に相当することがわかりました<sup>2)</sup>。一体的実施においても、通いの場関連事業に力を入れることで、フレイル対策が進むこと

が考えられます。

また、JAGES2010・2013年度の高齢者11,323人のデータを分析し、フレイル状態から回復する高齢者の特徴として、歩行や食事などの要素に加えて、外出や友人との交流が重要であることがわかりました<sup>3)</sup>。このことより、通いの場などにより、交流を促すことで、既にフレイル状態にある高齢者も改善させることができる可能性が示されています。

さらに、JAGES参加7市町109箇所における通いの場参加者2,159人のデータを分析した結果、通いの場をきっかけに他の社会参加も増加し、健康

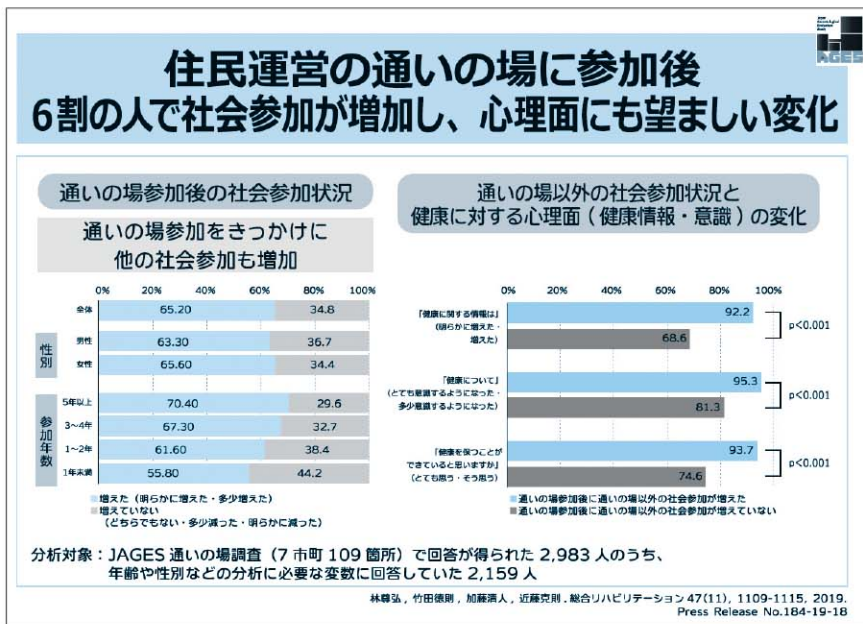
に関する情報の増加や健康への意識が改善したことも分かりました(図1)。一体的実施で目指すフレイル予防の普及・促進、健康教育・相談など

## 4.まとめ

第2回では、一体的実施における通いの場の位置づけとその活用、フレイルに関わる JAGES の研究成果について紹介しました。一体的実施において通いの場は保健事業と介護予防の事業等を結びつける重要な位置づけとなっています。通いの

を通じた地域の高齢者に対するフレイル予防の重要性の浸透という観点からも通いの場の活用により効果が期待できます。

場の活用により、一体的実施で重視されているフレイル対策に効果を発揮することが期待されています。第3回では、健診データなど保険医療データと介護予防データをあわせた健康保護効果に関する JAGES の知見などを述べたいと思います。



#### 参考文献

- 厚生労働省.高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について. (2021年5月30日アクセス) (<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000765914.pdf>) .
- Sato K. et al. Intensity of community-based programs by long term care insurers and the likelihood of frailty: Multilevel analysis of older Japanese adults. Soc Sci Med. 2020; 245: 112701.
- 渡邊良太, 他: フレイルから改善した地域在住高齢者の特徴 -JAGES縦断研究. 総合リハ. 2018; 46: 853- 862.
- 林尊弘, 他: 通いの場参加後の社会参加状況と健康情報・意識に関する変化: JAGES 通いの場参加者調査. 総合リハ. 2019; 47: 1109- 1115.

図1：通いの場に参加後、社会参加が増加し、心理面にも望ましい変化<sup>4)</sup>

## プロフィール

井手一茂氏



千葉大学予防医学センター  
特任研究員

《学位》博士(医学)  
《研究テーマ》「Age Friendly cities (高齢者にやさしいまち) づくり」, 「通いの場における介護予防効果の検証」

上野貴之氏



千葉大学予防医学センター  
特任研究員

《学位》修士(医科学)  
《研究テーマ》高齢者の生活習慣病の社会的決定因子の検証

近藤克則氏



千葉大学 予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授  
国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター  
老年学評価研究部長(併任)  
一般社団法人 日本老年学的評価研究機構 代表理事(併任)

《略歴》1983年千葉大学医学部卒業。東京大学医学部付属病院リハビリテーション部医員、船橋二和(ふたわ)病院リハビリテーション科科長などを経て、1997年日本福祉大学助教授。University of Kent at Canterbury (イギリス) 客員研究員(2000-2001)、日本福祉大学教授を経て、2014年から現職 千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授。2016年から国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 老年学評価研究部長を併任。2018年一般社団法人 日本老年学的評価研究機構 代表理事(併任)。「健康格差縮小を目指した社会疫学研究」で2020年度「日本医師会医学賞」受賞、「健康格差社会-何が心と健康を蝕むのか」(医学書院、2005)で社会政策学会賞(奨励賞)受賞。近著「健康格差社会への処方箋」(医学書院 2017)「研究の育て方」(医学書院 2018)「長生きできる町」(角川新書2018)